

花に寄せて 星野富弘 詩

I たんぼぼ

いつだったか
きみたちが空をとんで行くのを見たよ
風に吹かれて
ただ一つのものを持って
旅する姿が
うれしくてならなかったよ
人間だって どうしても必要なものは
ただ一つ
私も 余分なものを捨てれば
空をとべるような気がしたよ

II ねこじゃらし

思い出の向う側から
一人の少年が走ってくる
あれは白い運動ぐつを
初めて買ってもらった日の
私かも知れない
白い布に草の汁を飛び散らせながら
あんなにも
あんなにも嬉しそうに
今に向かって 走ってくる

III しおん

ほんとうの ことなら
多くの言葉は
いらない

野の草が
風にゆれるように
小さなしぐさにも
輝きがある

IV つばき・やぶかんぞう・あさがお

木は自分で
動きまわることができない
神様に与えられた その場所で
精一杯 枝を張り
許された高さまで
一生懸命 伸びようとしている
そんな木を
私は友達のように思っている

いつか 草が
風に揺れるのを見て
弱さを思った
今日
草が風に揺れるのを見て
強さを知った

一本の茎が
一本の棒を登って行く
棒の先には夏の空
私も あんなふうに登って行きたい

V てっせん・どくだみ

花は自分の美しさを
知らないから
美しいのだろうか
知っているから
美しく咲けるのだろうか

おまえを大切に
摘んでゆく人がいた
臭いといわれ
きらわれ者のおまえだったけれど
道の隅で
歩く人の足許を見上げ
ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が
現れるのを待っていたかのように
おまえの花
白い十字架に似ていた

VI みょうが

畑の草を一日中むしり
かいこに桑をくれ
夕方 ひよいと出かけてみょうがをとり
それを売っては
弁当のおかずを買って来てくれたっけねえ
いつもしよっぱい こぶのつくだ煮
花の咲いたやつは安くなるからと
花を抜いて売ったことも あったよね
もんべと地下たびの間は
蚊にさされた跡が いっぱいだった
かあちゃん
みょうがを食うとばかになるというけれど
おれは
思い出すことばかりです

VII ばら・きく・なずな

淡い花は
母の色をしている
弱さと悲しみが
混り合った
温かな
母の色をしている
母の手は
菊の花に似ている
固く握りしめ

それでいてやわらかな
母の手は
菊の花に似ている

神様が たった一度だけ
この腕を 動かして下さるとしたら
母の肩を たたかせてもらおう

風に揺れる
ぺんぺん草の実を見ていたら
そんな日が
本当に来るような気がした

詩は立風書房刊「四季抄 風の旅」による

北陸にて 田中冬二 詩

I きつねにつままれた町

秋の灯ともし頃の時雨の長浜の町は
きつねにつままれたような町だ
ここは古い寺院があつて門徒宗が多くて
家の造りからも もう北国の町だ
灯ともし頃を荒物屋油屋種物屋は暗く
薬屋だけがあかるくその硝子戸が
水族館のようだ
遠く暮れる空に伊咲山が未だ見え
長浜名物の田楽の葱味噌の匂いが
ほのかにして
秋の灯ともし頃の時雨に濡れている長浜の町は
まるできつねにつままれたような町だ

II 梨の花とお寺の奥さん

梨の花の見える庫裡で
村の娘たちに
お針をおしえているお寺の奥さん
梨の花もさびしいが奥さんのかおも白くさびしい
舞姫のような春はもう行きます
奥さん——
青葉に小暗く法燈もしめやかに
裏の林に時鳥をきく頃になったら
またあのお寺のつめたい水のくずそうめんを
たべさせて下さい
むかしのにおいのする蒔絵のお椀に
梨の花のようにさびしいお寺の奥さん

III みぞれのする小さな町

みぞれのする町 山の町
ゐのししがさかさまに
ぶらさがっている
ゐのししのひげがこおっている
そのかげにこおりついた
小さな町

ふるさとの山の町よ
——雪の下に麻を煮る

IV くずの花

じじいとばばあが
だまって
湯にはいつている
山の湯の くずの花
山の湯の くずの花

V ふるさとにて

ほしがれいをやくにおいがする
ふるさとのさびしいひるめし時だ
板屋根に
石をのせた家々
ほそぼそとほしがれいをやくにおいがする
ふるさとのさびしいひるめし時だ
がらんとしたひろい街道を
山の雪売りがひとりあるいている

VI 北陸にて

北陸線の
能生 梶屋敷 糸魚川 青海 親不知 市振 泊 入善
みんな何とさびしい名であろう
能生は海に沿うた細長い そして魚くさい町だ
魚問屋の土間をとおして 青い海が見える
丁度スクリーンいっぱいのように
その青い波の上を低くとんでいる白い海鳥
板屋根の古い宿屋があつて
昼を海に向つた方の雨戸を半閉ざしている
そんな昼を心天の水も温むような昼を
按摩が笛を吹いて 歩いている
能生 梶屋敷 糸魚川 青海 親不知 市振 泊 入善
みんななんというさびしい名であろう

Missa Ordinarium ミサ通常式文 (対訳)

KYRIE

Kyrie eleison. Christe eleison.
Kyrie eleison.

GLORIA

Gloria in excelsis deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus sanctus. Tu solus Dominus.
Tu solus Altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

CREDO

Credo in unum Deum,
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,
visibilium omnium et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filium Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine, Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
et propter nostram salutem, descendit de caelis
Qui propter nos homines,
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine: Et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis:
sub Pontio Pilato passus, et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria, iudicare vivos
et mortuos: cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum, Dominum et vivificantem:
qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio simul adoratur,
et conglorificatur: qui locutus est per Prophetas
Et unam sanctam catholicam
et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.
Et exspecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi. Amen.

キリエ

主よ憐れみ給え キリストよ憐れみ給え
主よ憐れみ給え

グローリア

天のいと高きところには神に栄光
地には善意の人に平和を
我ら主をほめ 主をたたえ
主を拝し 主をあがめ
主の大なる栄光に感謝し奉る
神なる主 天の王 全能の父なる神
主なる御ひとり子イエズスキリストよ
神なる主 神の小羊 父の御子よ
世の罪を除き給う方よ 我らを憐れみ給え
世の罪を除き給う方よ
我らの願いを聞き入れ給え
父の右に座したもう方よ 我らを憐れみ給え
主のみ聖なり 主のみ王なり
主のみいと高きにあり イエズスキリストよ
聖霊と共に父なる神の栄光のうちにいます アーメン

クレードー

我は信ず 唯一の神を
全能の父 天と地の創り主を
見えるもの見えざるもの全ての創り主を
唯一の主イエズスキリスト
神の御ひとり子を信じる
主は世の万物より先に父より生まれ
神の中の神 光の中の光 真の神の中の真の神
造られることなくして生まれ 父と一体なり
全ては主によりて造られたり
主は我ら人類のため
そして我らの救いのために天より下りて
その御からだは聖霊により
処女マリアより受けられ人となられた
我らのために十字架につけられ
ポンツィオピラトのもとで死の苦しみを受けられた
聖書にある通り 三日目に甦られ
天に昇りて父の右に座し給えり
主は栄光のうちに再び来たり生ける人と
死せる人とを裁き給う 主の国は終わることなし
そしてまた主なる聖霊 生命の与え主を信ずる
聖霊は父と子より出で
父と子とともに拝し
崇められ また予言者により語り給えり
我は一つの聖・公
使徒の継承の教会を信じ
罪の贖いの為の唯一の洗礼を認める
死者の甦りを信じる
来世の生命を待ち望む アーメン

SANCTUS

Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra gloria tua.

Hosanna in excelsis.

BENEDICTUS

Benedictus qui venit in nomine Domini.

AGNUS DEI

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi;
miserere nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi;
dona nobis pacem.

サンクトゥス

聖なるかな 万軍の神なる主
主の栄光は天地に満つ

天のいと高きところにホザンナ

ベネディクトゥス

ほむべきかな 主の御名によりて来たるもの

アニュス デイ

神の小羊 世の罪を除き給う主よ
我らを憐れみ給え

神の小羊 世の罪を除き給う主よ
我らに平安を与え給え

光のとりで 大岡 信 作詩

歌詞は、プログラム冊子に掲載されていま
すので、ご参照下さい。

片野秀俊指揮による
第7回 Amici Del Canto=146
昭和女子大学人見記念講堂
2005.7.17 1:30p.m.